

● 顕現後第三主日

泉のほとり

今月の詩編「第五十二編」

方ある者と、なぜ悪事を誇るのか。

神の慈しみの絶えることはないが

お前の考えることは破滅をもたらす。

舌は刃物のように鋭く、人を欺く。



この人はヨセフの子ではないか

キリストはご自分の育った町、ナザレに帰られました。安息日に会堂に入られ、聖書を朗読されました。渡されたイザヤ書を聞くとそこはご自身について語られている預言でした。朗読後、ご自身に注目している人々に読まれたイザヤ書を教え始められました。恵み深いことばに人々は驚いたのです。ところが驚いて彼らが言い放ったのは、「この人はヨセフの子ではないか」ということでした。恵み深いことばを聞いて驚いて心酔された、知恵のことばに驚いて心を改めた、心新たにされた、ではありません。

「噂のイエスという人」が来た。見ると以前、町でよく見かけた人です。しかも大工の仕事を頼んだ「あの男」ではないか。町の人々は「イエス」という名前も知らなかったのでしょうか。「あの大工の家のヨセフの子」と言っていたのです。他の福音書では「この人にあるこの知恵と方はどこから得たのか」と、「この人は大工ではないか」と言ってしまうと伝えていきます。およそ30年間過ごされたナザレ。その住民は30年間も、一緒に同じ町で過ごしたのに、「神の人」と見る人はなく、人間イエスにある「神の知恵」を見出す人もいなかったようです。正にキリストご自身の「人柄」から出てくる、知恵のことばを直接聞きながらも「その知恵をどこから得たのか」と言っていたのです。もつと聞かせてくださいと言う者はいなく、その恵み深いことばを聞いていても、神の人、預言者、ましてやメシアと見ることもなかったのです。ヨセフの子、大工と見たのです。

そのナザレの人々は自分たちが聞いている「噂」の通りのことを、イエスという男がこの故郷でも行なっていてほしいと期待していたようです。病人を癒し、悪魔を追い出し、奇跡を行なってほしいと。それこそあらゆる病人に対するキリストの御心、また荒野で

五千人を食べさせた時など、群衆を憐れに思うキリストの人柄からくる神の方と見る者はいませんでした。その心の頑なさゆえに、この町では力をお示しにならないと表すと、彼らは狼のようになり、キリストを捕まえ、外へ連れ出し、山の崖から突き落とそうとしたのです。

結局、「この人はあの大工、ヨセフの子ではないか」とは、イエスという男は崖から突き落とすとしてもよし、とする人だったのです。人はいかに外見、外側でしか物事を見ていないのかと思うのです。それは今も同じでしょう。人をその見た目、服装、家柄、学歴、地位などで判断するのです。しかし神はその人の心、内面を見ておられます。皆さん、大工であれ、キリストであれ、イエスという方は同じです。変わらなないので、

私たちは誰一人、自分の家柄、肩書き、出身大学、人脈、自分の知識など、それら人の外側のものしか見ない、またそれらしか誇れない、善い、悪い、愚かな人であってはなりません。なにより不幸なことは、そのような心ではキリストの内側にある「宝」が見えないのです。大工であっても、キリストであっても、変わらない主イエスのその人柄、神の似姿に目を向け、知恵を得て生きる者でありたいと思います。

ヨセフの子、大工ではないか。大工イエスからは聞く耳を持たなかったナザレの人たちには、人のために十字架を背負うキリストにある神の知恵を見ることにも、知ることにも遠い者たちでした。教いも遠かったのです。神は御子イエスをよみがえらせました。それは大工ではなく、キリストだからということではありません。神の目に望むるものだったからです。神に認められたキリストにあるものを愛し、それにだけ目を向けていきたいと思えます。

模範

パウロ、イエス・キリストの使徒。

テモテへの手紙2 一章一節

三重に聖なる方である、あなた

どのように、わたしがあなたに

お告げすることができましょう。

もしあなたがあの使徒と共に、

使徒としての務めに、わたしをお選びに

ならなかったとしたならば。

ただ祈りだけが助けることをする

ひとつの世界にあつて、

この最後の可能性を

どうかわたしに

軽んじさせないでください

どうかわたしを、

あの使徒を手本とする者としてください。

そして生きることの美しさを

経験させてください。

あなたにお仕えする男、

わたしたちのために

わたしは祈り願います。

どうか彼らが

あなたのお力を経験しないままで

いないようにしてください。

彼らが空しい言葉を吐かないように。

聖書は、み言葉に仕える者たちが人間を再

生へともたらし、心を神の方へ向け直させ、

もろもろの罪を赦すと教える。・・・神が我々

を教会の職務を通して再び生まれさせないと

したら、いったいどうして教会が、信ずる総

ての者の母と呼ばれるであろうか。

プリンガーへのカルヴァンの手紙

R・ポレン著 「祈る」より

祈りは植原博行氏の訳による

今日のお知らせ

○第一礼拝後、ロビーでのコーヒーサービスと、園舎二階のリズム室では、「ぶどうの会」が開かれます。

○本日予定されていた紫園香音楽伝道師の指導による賛美と祈りの会は、講師体調不良のため休会です。

○第二礼拝後、ホールで讚美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○明日二八日、朝一〇時半から午後四時まで、東京説教協の例会がホールで行われます。

○次週二月三日の午後、ハイデルベルク信仰問答を学ぶ会をします。今回は四六五、六八です。説教と聖餐の意味について教える箇所です。よく読んでご参加ください。また、来年度の奉仕体制についての教会員懇談会を行います。教会員の皆さまはご参加下さい。

○四月二一日のイースター礼拝で、受洗・転入会をご希望の方は、今日中に入信記を牧師あてご提出ください。

四国使り

冬の教会の庭に明るく咲き続けているバラ達！朝の水やりの時にはみんなが「冬来たりなば春遠からじ」と励ましてくれていたようです。見上げれば、四国連峰にも白雪がかり身の引き締まる思いの毎日です。謹んで十二月の牧会報告書をお送り致します。

主イエス様の御誕生をお祝いするクリスマスなのですが、このところ主のご啓示により御再臨に関してメッセージをする中で「キリストの花嫁としての備えを！」この事が波が打ち寄せるところに迫ってまいります。不思議なことに教会学校の聖劇にはその内容を多く取り入れることを教師全員が喜びの中で一致いたしました。すると全員に次々と思ってもみなかった様な素晴らしいアイデアや演出のヒントが与えられました。

聖劇の題名は「もう一度来られるイエス様」、この中では足なえの男性や盲目の男性がイエス様の前で「これまで苦しく悲しい思いで、人から見捨てられてみじめに生きてきましたが私を癒やしていただけないでしょうか」。この告白に対してイエス様は権威と深い憐れみの御声をかけ「立ちて歩め！」その通りが現実となった男性の歓喜のシーン。盲人の男性も「人の施しを受けながらの悲しい日々を生きてきました。日が見えるようになりたいのです」の切願を受け止めて同じくイエス様は権威と深い憐れみの眼差しで近寄られ「見える様になれ！」と。

権威がこめられた癒やしを賜わった人々の人生の変化への歓喜が見事に演出されました。また洗礼のシーンでは元教会学校のOBである高校生の男子がイエス様の役に協力して下さり厳肅なシーンを演じました。天国や地獄のリアルな絵と共に主の御言葉の約束も二人の朗読者によって実感のこもったものとなり、私達までも信仰が引き上げられる思いになりました。必ず主がとてもお喜びになられたことと確信いたしました。

来年は中学生となる近藤咲良さんが受洗を希望された事もとてうれしい出来事として主に感謝を申し上げます。四歳か五歳の頃に教会学校に入学された頃と今では大変に成長され、教師一同、驚きと共に感動・成長させて下さった主を喜びました。生徒の皆さん方のお友達とか祖父母の皆さま方も出席されました。これまでの聖劇の中では主が最もお喜びになれる内容となつたと思えました。

私共のためにいつも尊いとりなしのお祈りをいただきますこと励まされ、感謝を申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

二〇一九年一月十七日

田端良忠

聖書の会へどうぞ

1月30日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「からし種ひと粒の信仰を」

マタイ17章9節〜21節

吉村和雄牧師

●聖書の夕べ(19時)

「流れのほとりの木」

詩篇 第1篇

吉村和雄牧師

次週礼拝

●第一礼拝(午前9時30分)

讃美歌 小さいこともの わたしのように

説教「新しいいぶどう酒は新しい皮袋に」

聖書 ルカ5章33〜39節

説教者 菊池美穂子 副牧師

●第二礼拝(午前11時10分)

讃美歌 130番 263番

詩篇 56篇

説教「想像もできない神の恵み」

聖書 ローマ3章21〜26節

説教者 吉村和雄牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 今日もまた新しく

121番

説教 「世の終わりが来る」

聖書 ルカ21章1節～9節(新約P151)

司式 森洋之兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「スケルツォ」L.V.ベートーヴェン

○「今日もまた新しく」 聖公会讃歌16番

1. 今日もまた新しく 鳥 歌い 喜ぶ
み言葉に生かされて たたえよう この日を
2. 草木にも 恵み満ち 雨露の 輝き
神の園 しのぼせる たたえよう この日を
3. ひとすじの 光より 生まれでる この朝
声高く ほめ歌え み手による この朝

アーメン

○オルガンによる讃美

「なやむ者よ、とく立ちて」 D.カフ

○讃美歌 121番

1. 馬槽のなかに うぶごえあげ
木工の家 ひととなりて
賢しきうれい 生くるなやみ
つぶさになめし この人を見よ
2. 食するひまも うちわすれて
しいたげられし ひとをたずね
友なきものの 友となりて
こころくだきし この人を見よ
3. すべてのものを あたえしすえ
死のほかかなにも むくいられで
十字架のうえに あげられつつ
敵をゆるしし この人を見よ
4. この人を見よ この人にぞ
こよなき愛は あらわれたる
この人を見よ この人こそ
人となりたる 活ける神なれ アーメン ↗

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 90番 279番

詩篇 第52編(旧約P886)

説教 「恐れるべきは神」

聖書 マタイ10章24節～33節(新約P18)

司式 森洋之兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允湜 副牧師

前奏曲「ああ我らと共にとどまり給え、主イエス・キリストよ」 J.S.バッハ

○讃美歌 90番

○オルガンによる讃美

「なやむ者よ、とく立ちて」 D.カフ

○聖歌隊による讃美

「主にうたえ」 D&J.バリー
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
うたえ神にもろびとよ ハレルヤ！
うたえ神にもろびとよ ハレルヤ！

うたえたたえよ神を うたいたたえよ神を
うたえ神にもろびとよ ハレルヤ！
うたえ神にもろびとよ ハレルヤ！
新しきうたを 喜びてうたえ主に
新しきうたをハレルヤ ほめうた

ほめうたうたえ主に 神に神に
うたえほめうたえ 神に
うたえ神にもろびとよ ハレルヤ！
うたえ神にもろびとよ ハレルヤ！
うたえ神にうたえ ハレルヤ！

○讃美歌 279番

聖餐曲「アダージョ」 J.G.バッハ

後奏曲「ソルティ」 C.バッハ

聖餐曲「メディテーション」 F.メデーガーン

後奏曲「ソルティ」 C.バッハ